

# 「油断大敵」

## シナの潜水艦が潜没したまま 尖閣諸島に侵入

北朝鮮のミサイル騒ぎに日本中の耳目を集めているうちにシナチクがコソコソと尖閣諸島の日本の接続水域内を潜没潜水艦で航行するのを確認した。

早い話が「コソ泥」が頬カマリをして「抜き足差し足」で他人の家に忍び込んだつもりが最初から「防犯カメラ」に捕捉されていた、というお粗末。



評論家 石平氏 日本人のお嫁さんをもらい。2007年には日本国籍も取得。2008年に拓殖大学客員教授に就任。2014年には『なぜ中国から離れると日本はうまくいくのか』で第23回山本七平賞を受賞している石平（せき・へい）氏は「習近平は本気で尖閣諸島を取りに来た」という。

少しずつエスカレートしていく「シナ」の無作法な手口です。

「戸締りのゆるいところ」はどこかな？と何度も何度もチョッカイをかけて侵入できそうな箇所を見つけたらさあ大変！「蟻の一穴」でもグリグリと押し拡げ侵入

して来ます。

「シナの泥棒」に対しては油断は大敵なのです。

今回も我が国の接続水域までやってきて接続水域を出たり入ったり、しています。この不可解な行動はどこまでなら「ごり押し」が可能かな？と「相手が怒る」まで値踏みするシナの卑劣な常套手段です。

浮上もせず国旗も掲げず、潜水したまま接続水域に侵入してくる国籍不明の潜水艦はだ捕するのは難しい、でしょう。

ならば「機雷」か「魚雷」で沈めて差し上げたらどうでしょうか？

田母神俊雄先生なら明快に「すぐ沈めろ！」というはずなのです。

そして日本の接続水域に来て潜水したまま航行している国籍不明の潜水艦など何

隻沈めても戦争にはなりません。

「浮上して国旗を掲揚しなければいけない(国際法)」のですから、沈められても文句は云えないのです。

「な～んだシナチクさん」でしたか、国籍不明の潜水艦だったものですから気味が悪いのでとりあえず撃沈しておきました。「ごめんあそばせ」とでも言っておけば済む話なのです。

### 潜没潜水艦が「尖閣」接続水域を航行 中国フリゲート艦も

防衛省によると、1月10日午後、宮古島（沖縄県宮古島市）の東北東の日本の接続水域内を潜没航行する潜水艦を、海上自衛隊のP-3C哨戒機が確認した。潜水艦はさらに、1月11日午前に接続水域から出て、尖閣諸島の大正島（同県石垣市）北東の接続水域に入った。

また、1月11日午前には、大正島の北東の日本の接続水域に、中国海軍のフリゲート1隻が入るのを海自護衛艦が確認した。



尖閣諸島

### 潜没潜水艦及び中国海軍艦艇の 動向について(第1報)

平成30年1月11日

防衛省

1月10日（水）午後、海上自衛隊第6護衛隊所属護衛艦「おおなみ」（横須賀）及び第5航空群所属「P-3C」（那覇）が、宮古島（沖縄県）の東北東の接続水域を北西進する潜没潜水艦を確認。

その後、潜水艦は引き続き北西進し、1月11日（木）午前、宮古島の北北東の接続水域から出域、東シナ海に進出した。さらに、潜水艦は1月11日（木）午前、大正島（沖縄県）北東の我が国接続水域に入域したことを確認する。



中国海軍ジャンカイⅡ級フリゲート

また、1月11日（木）午前、海上自衛隊第15護衛隊所属護衛艦「おおよど」（大湊）及び「おおなみ」が、大正島の北東の我が国の接続水域に入域する中国海軍ジャンカイⅡ級フリゲート1隻を確認しました。その後、当該艦艇は一度接続水域から出域し、再び大正島の北東の我が国の接続水域に入域しました。

大臣（臨時代理）には、本件について直ちに報告を行いました。大臣（臨時代理）からは、

- ①不測の事態に備え、情報収集・警戒監視に万全を期すこと。
- ②関係省庁及び米国等と緊密に連携すること。

の2点について指示がありました。



護衛艦「おおなみ」



## 潜没潜水艦及び中国海軍艦艇の動向について(第2報)

平成30年1月11日  
防衛省

1月11日（木）午後、潜没潜水艦が大正島（沖縄県）の北北東の我が国の接続水域から出域するのを、海上自衛隊第15護衛隊所属護衛艦「おおよど」（大湊）、第6護衛隊所属護衛艦「おおなみ」（横須賀）及び第5航空群所属「P-3C」（那覇）が確認しました。

また、1月11日（木）午後、中国海軍ジャンカイⅡ級フリゲート1隻が大正島の北北東の我が国の接続水域から出域するのを、「おおよど」、「おおなみ」及び「P-3C」が確認しました。



対潜哨戒機「P-3C」



護衛艦「おおよど」